

# 土木森林環境委員会 県内調査活動状況

1 日 時 令和3年5月25日(火)

2 出席委員(8名)

委員長 猪股 尚彦

副委員長 志村 直毅

委員 白壁 賢一 杉山 肇 遠藤 浩 杉原 清仁

桐原 正仁 清水喜美男 小越 智子

欠席委員 なし

地元議員 山田 一功

3 調査先及び調査内容

(1)【都市計画道路田富町敷島線】(甲斐市)

○調査内容(主な質疑)

(中北建設事務所における説明・質疑)

問) 事業地の富竹工区の用地買収は全部済んでいるのか。この資料に用地補償とあるが、これはどういうことを言っているのか。

答) 富竹1期工区については、取りつけ道路の一部を残して本線部分は全て用地買収が完了している。富竹2期工区については、先ほど説明したとおり、約65%で、まだ道半ばというところである。

問) 用地補償というのは用地買収のことか。

答) その通りである。用地補償というのは、土地、建物、その他物件等の買収があればということである。

問) 名取温泉から富竹1期工区のバイパスまでの工事が進んでいる。我々の要望は、バイパスから北側の工事が終わった時点で、国道52号からバイパスの国道20号までの開通を先行してもらいたい。その辺りはどうか。

答) まだ確定的に申し上げられないが、令和5年度を目途に供用開始を考えている。

問) 完成している釜無工区に詳細設計とあるが、これは何が残っているのか。

答) 完成している区間については、まだ電線共同溝が設置されていない区間があるため、そこに電線共同溝工事を行う設計等のことである。

問) なぜ、道路と電線共同溝を一緒に整備しないのか。今の答弁は、一度、歩道を整備してからまた掘って剥がして共同溝をつけるということか。

答) 以前は、無電柱化計画の整備要件において、新設道路との同時施工が対象になっていなかった期間があり、遅れている箇所がある。

問) 当時は補助事業もなかったし、計画でもなかったからできなかった部分がある。今はそれが可能であり、盛んに電線共同溝をやっているわけだから、新設事業と一緒にやれば良い。そうやっているところももちろんあると思うが、どうしてやらないのか。

答) 現在は共同溝と道路工事を同時にやっている。この後、視察していただく現場もそんな状況である。

問) 中には予算的なものや、先に先行してやらなければいけないところもあると思うが、経費を抑えたやり方をやっていくほうがいい。

問) 資料の2枚目に、国道20号から国道52号の移動時間が3.03分から1.37分に短縮されるということで、先ほどの答弁で、令和5年に供用開始されるということになると、3.03分が1.37分になるかと思うが、渋滞は南北より東西の渋滞が激しく、甲府中心に行く東西の渋滞緩和というのはどの程度解消されるのか、これによる見込みがあるのか。

答) 定量的な数字は今持ち合わせていないが、確かに、名取の交差点から特に東西が渋滞している。この道路が竜王駅からそのまま国道20号に抜けられれば、かなり交通の流れも変わり、渋滞緩和に相当程度寄与するのではないかと考えている。

また、甲斐中央線、今回申請する田富町敷島線も並行して通過している、こちらの渋滞緩和にも当然寄与すると考えている。

問) いわゆる山の手通り北バイパス、それから新山梨環状道路北部区間、それから今回の国道52号バイパスをつくる時にも渋滞緩和という言葉が出ている。現在、朝夕の集中は確かにあるが、全体の交通量は減ってきている。これによって東西の線が幾つもあるが、どの程度渋滞が緩和される予定なのか、後日でよいが、試算があったらお示しいただきたい。

答) 現時点でデータは無い。



※説明、質疑の後、甲斐市富竹新田地内の工事現場を視察した。

## (2) 【意見交換会】

①出席者 けんせつ小町甲斐会員の方々

②内 容 「性別を問わず誰もが働き活躍できる建設業界のために」

### ○主な意見

委 員) 人口減少及び後継者不足ということの一つの対応策として、女性の戦力化というのが、世の中でうたわれている。

そこで、女性の戦力化という意味で、けんせつ小町の皆さんの一人一人のスキルアップ及びスキルワイドをどのように計画されているのか伺いたい。

出席者) 女性の戦力化というかスキルアップについては、私たちは、所属している会社も違えば業種も違う。それぞれ会社の中で大切な仕事を任されていく上で取得するスキルアップが必要になる。先ほどの動画にもあったように、重機の免許を皆さんと一緒に取得したりして、それもまた会社に帰れば一つのスキルアップとして使用できる。けんせつ小町甲斐として所属している中で、横のつながりもでき、違う業種で話しもできるというところで、けんせつ小町甲斐にいればいろんなところでニーズがあると思っている。

委 員) 先ほどの映像を見て、本当に感動した。女性がいろんな分野で活躍されていることは本当に素晴らしいことだと思う。恐らく今の職場、業種に魅力を感じて頑張っていると思うが、建設業に最初に携わろう、志そうと思ったきっかけ、動機などがあれば差し支えない範囲でお答えいただきたい。

出席者) 私は、高校を卒業して開発事業をしている不動産会社に就職した。とても大きい開発で、一気に畑の中に42区画の住宅街をつくるという開発もしていた。そのときは、不動産部で活動していたが、現場事務所に詰めながら、畑にどんどん道路ができて壁ができて、人が住める状態に日々変化していくのを見ていて、自然を相手に物をつくっていくすばらしさに引かれ、今ここいる。

出席者) 私は実家が設備業をしていて、小さいころから家の中に図面が転がっていることが多く、毎回違う図面を見るのが好きだった。20歳のころハウスメーカーに就職して5年ほど勤めて、出産と同時に建設業からは一時離れたが、子供が大きくなったこともあり、もう一度建設業へ入ってみようと思い現在に至る。

出席者) 私は小学校5年生のときに3・11の東日本大震災をきっかけに、すごく悲惨な映像をテレビで拝見し、津波で流されてしまったり、土木がないと私たちが生活していくのに生きていけないと実感し、工業高校の土木科に行き、縁があって中村建設に就職させていただいた。

出席者) 私は社会から離れて子育てをしていて、子育てもひと段落してパートを探していたところ、たまたま紹介してもらったのが建設業のアルバイトだった。一人で事務所にいたが、少しでも皆さんの役に立ちたいということで書類を整理したり、忙しいときには現場に駆り出されたりしているうちに建設業に興味を持ち、それで資格を取って現在に至る。

出席者) 私は土木造園業という職種で働いている。学生のころから自然環境について興味が

あり、大学でもそちらの分野を先行していた。動物も植物もとても好きだが、昨今、問題となっている地球温暖化や環境問題について造園という面からアプローチできないか。暮らしを緑とともに豊かにしたいということで造園業に入った。その中でも生まれ育った山梨で力になりたいと思い、株式会社富士グリーンテックで造園の仕事をさせてもらっている。

委 員) 資格を取られたということだが、どういった資格を取ったのか。

出席者) 元々、私は舗装部門で舗装工事の仕事をしていた。それに伴い1級土木施工管理士を取得して現場で5年間やっていた。その後、事務を経て今は安全推進本部で各現場に行って安全の注意喚起を行う仕事をしている。

委 員) 元々、早野組の舗装部門で1級土木施工管理士を受けて、技術屋さんとして子供を育てられたのか。

出席者) 元々は主婦だった。

委 員) 子供を育てた後、早野組さんに行って施工管理の資格を取ったのか。

出席者) そのとおりである。

委 員) 大したものだ。先ほど車両系の話が出ていたが、皆さん講習を受けて車両系の免許取ったのか。

出席者) はい。みんなで一緒に学科と実地を受けて、そして取得した。

委 員) 2泊3日でやるのか。

出席者) 学科が1日、あと実地が1日。

委 員) 車両系の資格を持っていることによって、建設業になじむという意味で資格を取ったのか。

出席者) そのとおりである。私の場合はどちらかというと現場監督だが、技能者（職人）として現場にいる方や、作業員もいる。同じ産業でも、それぞれみんな違う仕事をしている。その免許を取れば、現場でちょっと重機を動かさないと車が通れないというときにも使える。皆さんの安全を知る上でも重機の免許を取るときは安全性の勉強もするので、そういった面ではとても役に立っている。

委 員) ということは技術者ではない人もいるということか。

出席者) そのとおりである。けんせつ小町甲斐の中にはいないが、現場には女性の技能者がいる。ローラーを塗ったり、幕を動かしたり、鉄筋を組んだりする方々もいる。

委 員) 女性が現場で一番困るのがトイレや更衣室だと思うが、現場でのトイレ対策は皆さんの会社ではどのようにしているのか。

出席者) トイレは国土交通省が平成26年度ぐらいから快適トイレというものを現場に投入

するということで、施行期間を経て平成28年度には、国交省直轄の現場には標準的に快適トイレを置きなさいということが示された。その快適トイレというのは、花火大会とかにある仮設トイレとは違い、少し広目で手洗いがついていて、着がえられて、二重ロックになっていて、臭いが戻ってこない二重フラップという衛生面でも気を使われているトイレがある。少し高価で、月に通常のトイレの5倍ぐらいするが、それを男性、女性別々に1棟ずつ置くように国直轄工事では標準化されている。しかも、共通仮設費という工事金の中で見てくれるためとても浸透してきている。山梨県の工事でも環境改善として力を入れていて、週休二日制の推進をしてくれているが、山梨県の直轄工事でも快適トイレの導入を推進していただけるとありがたい。でも、昔よりは良くなっている。

委員) そういうことで山梨県では直轄工事の中に入っていない。

出席者) 現在は入っていません。私たち個人で企業努力というか工夫として、現場に快適トイレを設置している。

委員) 山梨県でもこういうのをやったほうがいい。例えばこれから女性を入れていこうという時代であれば、評価点を高めるとか、そういった方法を考えて政策に誘導をかけていくということも重要だと思う。これから皆さんがリーダーになって各会社に女性が半分ぐらいいてもいい。女性ってしなやかだという捉え方があり、頭もいい方が多いから資格も取る。1級土木施工管理士を持っているとか、建築の人たちは設計士の免許を取ったり、施工管理を取ったり、設備にも資格がある。造園も1級施工管理士がある。皆さんがリーダーになって、うちの会社には技術者の女性が何人いるから加点されるというようになってくると、さらにスピードが上がってくる。ぜひ、皆さんもリーダーとしてしっかり頑張っていただきたいと思う。

委員) 今の職につかれてからスキルアップをしていく機会を会社でもバックアップをしてきていると思うが、そういう体制が女性だからということに限らず、経験の若い社員の方はそうやってスキルアップをしていく必要があると思うが、そういう体制ができていていると感じるか。

もう一つは、高校とか義務教育の少年期、青年期の学齢期に、建設業界のことになかなか触れる機会がないため、あまり関心を持ってもらえない。そうすると、やはり高校に進学するあるいは就職、その先の技術を身につけるという選択肢がない。特に、女性の場合は選択肢に挙がってこないところがちょっと残念だと思っている。もし、若い段階で多くの子供たちに関心を持っていただくような、建設まつりなどの取り組みや、そういう機会があったら、お子さんをお持ちの方もいらっしゃるの、どのぐらいの年代が一番響くと思うか。

出席者) 最初に、社内の教育ということだが、私がまだ資格を持ってないときには、資格をまだ取得できてない方たちと一緒に会社で勉強会を開いてくれた。そこで同じ会社の社員が講師になって、いろいろ勉強を教えていただき、現場に行き勉強をしていた。

それから、私の子供は男の子と女の子の双子で、子どもたちに、きょうはこんなことあったんだよということをいろいろ教えていた。それで興味を持ち、最終的には息子は現場監督になるための勉強として工業高校へ、娘は重機オペレーターになりたくて城西高校の機械科に進学した。そこに在籍していると夏休みに大型車両系を取得できるということで志していたが、やはりまだちょっと時代が早かったみたいで就職口がなくて断念をして、違う工場に就職をして、今もう一児の母になっている。孫も、建設重機が大好きで一緒に現場に行ったりしていろいろ教えている。そのあたりはも

う次代の担い手を確保していると思っている。

それから、青年部でも保育園や幼稚園、小学校、中学校に訪問をして建設業のアピールをしている。私は、子供たちにアピールするのも大切だが、親にも理解を示してもらわないことには、先に進まないと思っている。私たちは建設業に携わっているから建設業の良さがわかっているが、それに携わっていない方たちは、やはり今でも30年、40年ぐらい前のイメージで、危ないとか、怖いというイメージがあるのでそれを払拭しない限りは、厳しいと思う。だから、親御さんたちに理解をしてもらって、「建設業に携わりたい」という子どもに「いいね、楽しそうだね、じゃあ、やってみよう」と後押ししてもらえるようなアピールができればいいと思っている。

出席者) 社内のスキルアップ体制は、皆さんの会社も同じだと思うが、やはり社内にはいっぱい先輩がいるので、勉強会やこういう問題が出るというところも教えてもらえる。例えば、会社から何月にこんな試験があるから受けてみたらどうかと進めてくれたり、そういう情報も現場におりてきて、とてもバックアップ体制は整っていると思う。資格面だけでなく重機などの技能資格も整っていると思う。

どの年代でアピールしたら建設業へ関心を持ってくれるかということだが、やはり女性がというところもあり、奥村組のテレビCMでも、女性の監督が出てきて一生懸命頑張っている姿とか、そういうところも皆さんに知られてきていて、その中でこの山梨県でもけんせつ小町甲斐のアピールもしていきたい。来週、青洲高校で親御さんを交えた建設産業の説明会を予定している。私たちも小学校や中学校から要請があれば行って、担い手確保のために建設業のアピールをしていきたいと思っている。昔の3Kのイメージを払拭して、給料が高い、休みが多い、希望があるという新3Kをアピールし、担い手確保に努めていきたいなと思っている。

委員) 建設業でやはり女性が現場にいるということで、華があるということだけではなく、女性がいることが当然だという社会になっていったらいいと思う。今話を聞いていて、まだ御結婚されてない方とそれから結婚されて子育ての方がいるが、若い人がどうすればこの職業を選ぶのか。今、若い人、女性も環境問題とか温暖化の話やそれからICTにすごく関心が高い。そこは、この建設業の分野が一番近いと思うので、そこにアプローチしていくとやはり関心が高くなって選ばれる業種、選ばれる仕事になっていのではないかと思う。それから、やはり山梨県は技術者が不足していて、公共事業の発注も技術者がいないということでもなかなか大変だということも聞いている。

技術者の資格がある人は東京に行ってしまうという話も聞いていて、東京から帰ってくることもなかなかないということになると、山梨県で女性や、若い人が建設業を選ぶにはどうしたらいいか。それから建設業だけではないと思うが、子育てしながら学校のPTAとか、子供のぐあいが悪いとか、そういうことも含めて子育てと仕事の両立のところで困っていることとかがあったら教えてもらいたい。建設業の中で女性のリーダーになって、この橋をつくったんだとか、私がこのビルをつくったとか道をつくったという女性が出てくると、私もこういう仕事したい。という人が出てくると思う。ぜひ、こうしたいとか、働きにくいこととか、改善したほうがいいとか、言にくいことも含めて教えてもらいたい。

出席者) 建設業という業界に入るに当たって、やはり女性が少ないということは入社する前から覚悟していた。建設業に入るに当たって、3Kといわれているのを耳にしていたので、ちょっと怖いという部分も正直あった。しかし、けんせつ小町甲斐に入って、同じように現場で働いている女性と話す機会があり、そういった中で意見交換していくことができたのでそれはすごく良かったと思っている。

これから、もし結婚する機会があつて、子育てのことを考えると、ちょっと不安な

部分も正直ある。ただ、結婚されて子育てしている方の話も聞けるので、けんせつ小町甲斐に入らせてもらって安心した。

出席者) 仕事に関しては、やはり男性と同じ仕事をしているので、女性だから、御飯の支度があるから帰るといふわけにはいかない。逆に男性側のお父さんが、考え方を考えてくればよいと思う。

どうしても帰らなきゃならない時もあると思う。うちの職場は共働きのお母さんが多いので、きょうは子供のお迎えがあるから帰りますといふて、お父さんたちがほとんど帰っちゃうので、逆にそのほうが今らしくていいと思う。

委員) 全く同感。子供のことを思うと、まずお母さんが何するかということなので、お父さんはどうしたらいいかということをもまず先に考えてもらいたい。女性の技術者のアンケートによると、女性が41人で男性が1,388人。ダイヤモンドのように大事な41人で、事務の方が8人ということで、本当に少ないが、やはり横のつながりがあって先輩それから後輩の方、これから入ってくる方々にいろんな情報提供をして、そしていろんな改善をすることもできるように、会社を超えて、業種を超えて、そしてこういう輝く建設業の女性がいて、建設業協会のパンフレットに載ると、女性や若い人が選んでくれるのではないかなと思う。

委員) 建設会社をやっているが、結婚すると辞めて戻って来てくれない。ぜひ、結婚したらまたリターンしていただいて、出産をして、補償金もらったらまた来なくなってしまうから、ぜひ復帰してほしい。建設事務は資格を取っても給料は上がらないが、技術屋さんは資格を取っていったら給料がどんどん上げられる。技術屋さんは頑張って資格をどんどんとっていければ、その辺の男性と肩並べて十分600万円、700万円の給料が取れる。ぜひ結婚してもそのまま子育てに行かないように戻って来てほしい。

委員) 県議員は女性一人。県議会に対して女性議員の比率が低いということに対して、将来誰か立候補してくれる方が会員の中からでも出てくればなと思っている。そのことについて、皆さんから意見をいただきたい。女性議員をふやしたい。男性より能力が高い。我々は男であって女性にしかできないことがある。やはり女性の力というのは大きいと思っている。女性の比率が低いことに対して、何か皆さんの考えがあったらいただきたい。

出席者) 建設業界に対しての女性の比率ということでお話をさせていただく。

この業界に入りたいと思って入ってくる女性の方が圧倒的に多いと思われるが、やはり入る前に固定概念というか先入観で、いじめられるんじゃないとか、いろいろされるんじゃないかと不安はあるが、入ってみると、逆に気を使ってくださる方のほうが多くて申しわけないと思ってしまう。私も出産して、今、小学2年生の子供がいるが、そのときに、この先出産して子育てをしながら現場監督が続けられるだろうかとすごく悩んだ。そうこうしているうちにお腹も大きくなり、社長に相談したところ、何しろ戻って来いと、会社で全部バックアップするからということで戻らせてもらった。その思いがあるので復帰後は、会社にとってメリットがある人でいたいと思いつながりながら仕事をするようになった。会社にとってメリットがある人材でいなければ戻った意味がないということもあり、その後も子育てしながら現場監督として続けられるということは、子供を産む前も仕事として会社が女性男性関係なく私に仕事を与えてくれた。女性だからこれはやめようとか、そういう隔たりなく仕事を与えてくれたことで、出産後の仕事にも自信としてつながって、何でも要領良くできるようになつ

たと自分でも思えるようになったので、会社の受け入れ側体制として女性が入ってきたら隔たりなく、厳しいところもあるかもしれないが、現場の仕事を与えてあげてほしい。そうすればその自信とスキルを持って出産後も戻って来られ、後ろめたさなく働けると思う。

そして、今、男性も女性も子育ては同じだと思うので、男性も子供の用事で抜けるときがあると思うので、それを会社全体でやること。女性だけに子供がいるから帰っていいよとかではなく、男性にも子供に対する行事があるので、男性の監督も同じように子供の行事とか地域の行事で帰ったりできるように受け入れ側として会社全体にそういうところがあると女性が働きやすいと思う。女性が働きやすければ男性が働きやすいのは当たり前だと思うので、受け入れ側で整えていただけたらいいと思う。

委員) 女性、男性問わず同じ条件で仕事ができるような体制にしてもらって、どうしても帰らなければならないときは、お父さんもお母さんも関係ないよという体制にしていければということですので、遠慮なくほかに将来を見据えた中で若手の方どうですか。

出席者) 私は高校を卒業して建設業界に入り、右も左もわからず、会社にも女性は誰もいなくて、このけんせつ小町甲斐が、会社では誰にも相談できないことが相談できたり、女性同士でわかり合える貴重な場なので、けんせつ小町甲斐があるということをもっと全面的に出せば、今の学生さんたちにも女性がいることがわかってもらえる。そういう会があれば私もやっていけるのかなと思ってもらえれば本当にうれしいし、逆に私たちが働いているところを今の学生さんたちが見てもらえる機会がふえれば、あの会社に女性の方がいるから私も同じようになりたいとか、私もそういう仕事をしたいと思ってもらえれば本当にうれしいので、もっとけんせつ小町甲斐を広めていきたいと思う。

出席者) やはり、これから建設業界に女性が多く入ってくれることがすごく大事だと思う。周りに相談できる相手がいると、すごく気持ちも楽になり、モチベーションも上がるなどと思う。学生の皆さんに建設業には女性がいるということや女性でも今ICTとか、力仕事だけじゃなくて女性でも活躍できる部分があるというイメージを知ってもらってことが一番大事ではないかと思う。

出席者) 子を持つ母として、やはりうちも私が職人や現場代理人をしている姿を見ているので、子供たちは何の違和感もないが、昔、授業参観にこの作業着の格好で行ったら逆に目立ってしまい、作業服を着ているお父さんたちはいっぱいいたが、やはり女性は少ないなということを目の当たりに感じた。高校に電気科がある学校があると思うが、どうしても女性は少ないので、中学生あたりから進路や学校を決めていくと思うので、その子たちに女性がいるというアピールができれば、電気科の40人に対して女の子が一人か二人という学生が、もしかしたら40人のうち10人が女の子とふえていくんじゃないかなという意味で、いろいろアピールできていけたらいいと思う。

出席者) 私も子供がまだ学生のころ、仕事帰りで授業参観や三者面談に作業着で行ったことがあったが、「お母さんはこんな仕事しているんだよ」って言って自慢をしていたみたいで、娘と息子をととても誇らしく思った。

先ほど委員がおっしゃったように、女性の管理者が多く出てきていただければ、この業界に限らず女性が仕事をしやすくなるのではないかと思う。今、社会的にも、女性目線ということを取り上げられているんですけども、男性ではちょっと気がつかないことがやはり女性のほうが気づきやすいことがあると思う。やはり女性の意見イコール世間一般の声であると思う。

なぜかという、以前、車で出勤するときに、仕事をするためにちょっと道の端に、作業員の皆さんたむろっていて、信号待ちの車の人たちをじっと見ていた。建設業を知らない人が見たら集団で男性がいると怖くて、ちょっと嫌だなと思ったことがあった。そんなことがあったので、安全委員として各現場の方たちに、公道で仕事している人たちは休憩するとき、じろじろ公道のほうを見るのではなく、逆に壁のほうを向いて休憩を取るように水平展開をしたこともあった。

それから、入職者については、建設業の求人を出すっていう場合は、建築業とか土木業と大ざっぱな感じで求人が出ていると思うが、建設業でもIT化がすごく進んでおり、パソコンができる方とか、やはり体力を使いたいという人も中にはいると思うが、そういう方たちにはこういう仕事がありますということで、パソコンができる人は例えばCADとか図面を描いたりとか、マシーンコントロール、やはりリモコンでできることもあるので、大ざっぱな施工管理ではなくて施工管理の中にもこういう仕事があるから、細分化して皆さんにアピールして建設業に入ってもらいたいと思う。

最後に、達成感について、私はこの現場をやって形に残したということをややはり強くアピールしたほうがいいと思う。今は、完成したものを大きくクローズアップするが、その過程もこうやってこうなりましたということを手前に皆さんにアピールできたら、どの仕事にも達成感はあると思うが、やはり多くの人に目についたもののほうが大きな達成感を得られるので、建設業はすばらしい職業だということをやアピールできたらいいと思う。



意見交換会の様子